

二本の木と、生活の二つの原則

聖書：創 2:9. ヘブル 4:12. I コリント 2:14-15.

ローマ 8:4, 6. エペソ 4:18-19. II コリント 11:3

I. 創世記第2章9節の二本の木（命の木と善悪知識の木）は、生活の二つの原則を表します：

- A. 二本の木が見せているのは、クリスチャンが二つの異なる原則（正しいか間違っているかの原則、あるいは命の原則）にしたがって生活することがあり得るということです——I コリント 8:1。
- B. クリスチャンであることは、正しいか間違っているかの原則（善悪の原則）の事柄ではなく、命の事柄です——I ヨハネ 5:11-13, 20。
- C. わたしたちは主イエスを受け入れて新しい命を獲得したとき、生活のもう一つの原則（命の原則）を得ました。もしわたしたちがこの原則を知らないなら、命の原則をわきに置き、正しいか間違っているかの原則に従うでしょう。
- D. クリスチャンであることは、あることが正しいか間違っているかを問うという事柄ではなく、わたしたちが何かを行なうときはいつも、内側の命を調べるという事柄です——ローマ 8:6. エペソ 4:18-19。

II. わたしたちのクリスチャン生活は、内なる命に基づいているのであって、正しいか間違っているかの外なる標準に基づいているものではありません。わたしたちの生活の原則は内側のものであって、外側のものではありません：

- A. もしわたしたちが正しいか間違っているかの原則によって生きるなら、わたしたちはこの世の人々と同じです——エペソ 4:17。
- B. 正しいか間違っているかが決定されるのは、外側の標準によるのではなく、内なる命によります。
- C. わたしたちは、悪であるすべてのものを避けるだけでなく、単に善であるすべてのものも避けるべきです：
 - 1. クリスチャンは、命から来るものだけを行なうことができます。悪の事柄、善の事柄、命の事柄があります——ヨハネ 1:4. 10:10. I ヨハネ 2:25. 5:13。
 - 2. 創世記第2章9節で、「善悪」は一緒にされて一つの路線にあります。 「命」は別の路線にあります。
 - 3. 善の標準よりも高い標準があります。それは命の標準です——ヨハネ 11:25. I ヨハネ 5:11-12。
 - 4. クリスチャン生活の標準は、悪である事柄を対処するだけでなく、善

である正しい事柄も対処します。

5. 多くの事柄は人の標準によれば正しいのですが、神聖な標準によれば間違っています。なぜなら、それは神聖な命に欠けているからです。

D. クリスマン生活は、内なる命に基づいています——ローマ 8:2, 6, 10-11 :

1. クリスマンは、命から離れて何も決定すべきではありません—— I ヨハネ 5:13。
2. 内なる命を増し加えるものは何であれ正しく、内なる命を減少させるものは何であれ間違っています。
3. わたしたちの道は神の命であって、正しいか間違っているかではありません。これら二つの原則の違いは巨大であり、ここの対比は大きいのです。
4. わたしたちが尋ねなければならない一つの質問は、わたしたちの内側の神聖な命が盛り上がるかしばむかです。これは、わたしたちが取る道を決定しなければならないものです。
5. 神がわたしたちに要求しているのは、神聖な命を満足させることです。わたしたちは、神がわたしたちに与えた命を満足させる方法で、事を行なわなければなりません——ヨハネ 1:4. 3:15。
6. わたしたちはクリスマンとして、自分が犯した罪のために、神の御前で悔い改めるだけであってはなりません。わたしたちは多くの時、自分が行なった善い事のために、神の御前で悔い改める必要があります。
7. わたしたちの生活の原則は、善と悪を区別することではありません。わたしたちは神の御前に来て、何が命のもので何が死のものであるかを決定しなければなりません——ローマ 8:6. I ヨハネ 3:14。

III. わたしたちは命の原則にしたがって生活しようとするなら、霊を魂から識別して、霊を知る必要があります——ヘブル 4:12. I コリント 2:14-15 :

A. その霊である主は、わたしたちの霊の中で生き、住み、働き、行動し、活動しており、わたしたちは彼と一つ霊です——II コリント 3:17. ローマ 8:16. I コリント 6:17 :

1. わたしたちは実際的に主を知ることがを願い、日常生活の中で主を経験することを願うなら、わたしたちの霊を識別することを学ばなければなりません——2:14-15。
2. もしわたしたちが、わたしたちの人の霊を知っていなければ、わたしたちの内側の神の行動を理解することはできず、主に従うことはできません。なぜなら主はその霊であり、わたしたちの霊の中で生きているからです——I ヨハネ 2:27. II テモテ 4:22。

B. わたしたちは、わたしたちの霊と、その他の内側の各部分との違いを知る必要があります——詩 51:6. エゼキエル 36:26. I ペテロ 3:4。

C. わたしたちの魂の中でいかなる事を行なっても、それが正しくても間違っているとしても、それは古い人の中で生きることです。ですから、わたしたちは自分の魂の命、すなわちわたしたちの自己を否む必要があります——マタイ 16:24-26。

D. わたしたちは自分の霊に従うとき、主ご自身に従っています。なぜなら、主はわたしたちの霊の中におられるからです——Ⅱテモテ 4:22. I コリント 6:17。

IV. わたしたちは命の原則にしたがって生活するために、命の内なる感覚に従う必要があります——ローマ 8:6. エペソ 4:18-19. イザヤ 40:31 :

A. 命の感覚は主観的で、個人的で、实际的です :

1. 消極的な面で、命の感覚は死の感覚です——ローマ 8:6 前半。
2. 積極的な面で、命の感覚は命と平安の感覚であり、力、満足、安息、明るさ、心地よさの感覚を伴います——6 節後半。

B. 命の感覚の源は、神聖な命 (エペソ 4:18-19)、命の法則 (ローマ 8:2)、聖霊 (11 節. I ヨハネ 2:27)、わたしたちの中に住んでいるキリスト (ヨハネ 15:4-5)、わたしたちの内活動する神です (ピリピ 2:13)。

C. 命の感覚の機能は、わたしたちが天然の命の中で生きているか、それとも神聖な命の中で生きているかをわたしたちに知らせ、また肉の中で生きているか、それとも霊の中で生きているかをわたしたちに知らせます——I コリント 2:14-15. ローマ 8:8-9. ガラテヤ 5:16-17。

D. 信者の命における成長は、彼がどのように命の内なる感覚を取り扱うかにかかっています——エペソ 4:15. コロサイ 2:19. I コリント 3:6-7。

E. わたしたちは自分自身を命の感覚の中へと祈り込み、その制御し、導き、方向づける要素の下で日ごとに生きる必要があります——ローマ 8:6. エペソ 4:18-19. I ヨハネ 2:27。

F. わたしたちは霊にしたがって歩き、命の感覚に従うことをすればするほど、ますます命の原則にしたがって生きます——ローマ 8:4, 6。

V. わたしたちは命の原則にしたがって生活するなら、物事を正しいか間違っているかにしたがってではなく、命か死かにしたがって識別します——Ⅱコリント 11:3 :

A. ヨハネによる福音書が強調している事実は、命の木が善悪知識の木と相対するという事、またわたしたちが善悪にではなく、命に注意を払うべきであるということです——ヨハネ 4:10-14, 20-21, 23-24. 8:3-9. 9:1-3. 11:20-27。

B. 物事を識別する最上の方法 (識別の秘訣) は、命か死かにしたがって識別することです。わたしたちが学ばなければならないことは、物事を、命か死かにしたがって識別し、区別し、わたしたちの命の供給としての

キリストに対する享受からそらすいかなる語りかけも拒絶し、主の真の務めを受け入れるということです。真の務めは、常にわたしたちを強めて、わたしたちの命の供給としてのキリストを享受させます——ローマ 8:6。 II コリント 11:3。

© 2022 *Living Stream Ministry*